

入来院大圓を支える方々と理事長

先ずここに良順師生前から、または現理事長時代、世界平和同願会の会員として、変わらぬご支援を賜っている皆様に篤く御礼申し上げます。

平成8年、先師良順の遷化後は、その大事業を積極的に引き継ぐ人はありませんでした。入来院大圓は大正大学3年に在学中でしたし、入来院重朝は名目上の理事ではあったものの、前年定年ということで鹿児島に帰郷していました。

生前の良順師は、まだ新仏教の聖地として境内に仏舍利塔も建立したかったし、観音像を平和のシンボルとして何体も贈りたかったことでしょう。

しかし、情熱はあってもかつての力はありませんでした。せめての願いは、昭和寺を平和祈願の霊場として、全戦没者の慰霊祭を継続してほしい、大圓を法嗣として支えてほしい、自分の葬儀を昭和寺葬として霧ヶ峰でしてほしいという3点で、繰り返し周囲の人にその願望を伝えていました。

師のせめての願いを実現させるには、入来院重朝が理事長を引き受けざるを得ませんでした。しかし今まで同願会には殆ど関わって来ませんでしたので、手探りで始めるより仕方がありませんでした。

幸い良順師の無二の親友で、長年同願会副理事長として貢献して来られた三谷深氏がご存命で、同年6月8日、新宿のスバルビル越前折鶴において、同願会と昭和寺の合同役員会開催の手はずを整えて下さいました。そこで協議の結果(出席者9名、委任状14名)、(財)世界平和同願会理事長を入来院重朝に、(宗)中観山同願院昭和寺の住職に入来院大圓と決定致しました。

理事であり大圓得度の導師、滋賀院門跡渡辺恵進大僧正の存在が私達の大きな頼みでした。そして9月8日、恵進大僧正の大導師、長野善光寺の小山健英氏他の住職、大圓も加えて6名の式衆で、無事良順師の昭和寺葬を挙行することが出来ました。

それまで昭和寺に分骨なされていた方や、仏舎利建立にご寄付なされた方には大圓揮毫の万霊碑を建立、開眼供養も併せ行いました。

その年、入来院重朝の高校時代からの友人、馬場康隆さんと貞子の高校の同級生、井上要子さんが理事に加わって下さいました。

その後、先師の頃の役員は故人となった方も多く役員の交代もありました。例年会費も委任状もきちんとご返送頂いていた巢鴨高岩寺の来馬則男師から今年はお返事がないのでネットで調べましたら、平成19年3月19日逝去とありました。驚いて弔辞をお送り致しました。改めて現理事にはご連絡の上、名簿を作成いたします。現在は理事長の友人が参加して下さいます。

平成9年春、渡辺恵進師が第255世天台座主になられました。詳しくは作品集エッセイの部平成9年「伝燈法承式」をご覧ください。現在恵進師は、お座主の座を譲られていますが、常に大圓の将来にお心遣い頂いています。

良順師の晩年の法話にご協力下さっていた善光寺寿量院小山健英師には、大圓の後見人として大変なご協力を頂いて来ました。例年、慰霊祭には長野市からバスで大勢の参拝者をお連れ下さり、法要の導師・法話をお願いして来ました。平成10年から大圓は善光寺大勧進に勤務し生計も立つようになり、結婚の仲人もお願いしました。また境内地取得には心を砕いて頂きました。現在健康を害されて2年程ご参加頂けません。ご回復をお祈り致します。

先師の代より理事として変わらぬご参加を下さっている岩波秀一氏の他に、理事長の友人で現理事として支援して頂いている方は、次の方々です。

馬場康隆 吉永和剛 長野佳久 横尾堅示 日原美枝

一弦琴の演奏を奉納下さっている坂口恵美子女史。東京から友人を連れて参加下さる重朝の友人田中英男氏。地元から漬物や野菜などを持参して参加下さる貞子の友人の丸茂弘子さんも、鹿児島からの貞子を力づけてくれています。かつての貞子の恩

人の娘さんで塾生の大磯恭子さんは良順師の昭和寺葬にも参加、その後も都合のつくりご一家で参列して下さいます。

昭和寺は大阪万博のラオスパビリオンでしたから、傷みが激しく、補修するのも大変な費用が掛かります。最初は雨漏りの修理など2百万円もあればいいかなと思って募金の趣意書を作成致しました。しかし今年の法要の後、本格的に見積もって頂いたところ、5百万円は必要とのことでした。

別紙に趣意書は掲載してありますが、そのきっかけを作ったのが、ライダーとして訪れインターネットに報告下さった荒川聡子さんと松井利之さんです。(昭和寺で検索して下さいればご覧頂けます)こうした若い人たちの出現に未来を感じ、期待するものです。

現在、住職大圓は善光寺勤務と福満寺という古刹の住職も兼ねていて、多忙の上、往復6時間もかかる霧ヶ峰にはなかなか来れずに殆ど無人状態です。

この素晴らしい霧ヶ峰という場所を生かして、この施設を活用する方法はないか、衆知を結集したいと願っています。ご意見を期待して居ります。

貞子は理事として機関紙「**同願**」の編集、出版の事務局を引き受けました。「**同願**」は平成3年で途絶えたままでしたが、紙面を一新し平成8年12月、45号を出版しました。法嗣大圓の決意表明、重朝の理事長就任挨拶とともに、恵進師の良順師の「山崎良順師と入来院大圓君」、三谷副理事長、戦友の木藤巳波夫氏のお二方の先師を偲ぶ原稿を頂きました。そしてこれらの胸に沁みる文はまもなく遺稿となりました。

それから毎年2回出版して現在は64号、20回出したこととなります。

その間、各理事・友人たちをお願いして寄稿頂きました。心から感謝して居ります。

これらはいずれ時代の証言になることでしょう。今は日本も大きな曲がり角に来ています。明日の日本を考えて、皆様のご意見や回顧録などをお待ちして居ります。

✂切りは毎年11月末日と5月末日とさせて頂きます。

今後とも入来院大圓の成長を見守り、昭和寺の発展のためにご助力下さいますよう。